



氷上姉子神社

宮簀媛命を祭神に祭る氷上姉子神社は、火上山と呼ばれる丘陵地に鎮座する勸田神宮の別社である。古来、大高の氏神として崇敬されてきた。毎年6月第4日曜日に執り行われる御田植祭が有名



近くには、日本武尊と宮簀媛命の故事にまつわる「建甍の尾」があります

近江富代子さん



鷺津砦跡

鷺津砦は永禄2(1559)年、織田信長が今川義元を攻めた大高城に抵抗するために築いた。桶狭間の戦いでは、2,000人余りの今川勢に攻められ、奮戦していた飯尾定宗、織田信平らの大半が討死した。国指定史跡



春江院

大高山春江院は多宝如来を本尊とする、曹洞宗の寺院。弘治2(1556)年の創立で、大高城主水野大膳が父和泉守の菩提寺として建立したとされる。山門、本堂、曹院など現存する建物8棟が国登録文化財である



酒蔵

大高では江戸時代から酒造りが盛んに行われてきた。現在、大高に残る酒蔵は萬葉酒造、神の井酒造、山崎酒造の3軒。毎年2月の最終日曜日には、神の井酒造と山崎酒造が「酒蔵見学会」を開催し、多くの人でにぎわう



名古屋には5軒の酒蔵がありますが、そのうちの3軒が大高にあるんですよ

山口初富さん



大高城跡

永正年間(1504~1521年)の築城と伝わる大高城。桶狭間の戦いの折は徳川家康(当時松平元康)が守っていたが、今川義元の敗死後、家康は岡崎に帰り、廃城となる。現在も堀の一部などが残っている。国指定史跡



徳川家康による「大高城の兵隊入れ」の遺跡が有名ですね

徳川家康さん



丸根砦跡

丸根砦も鷺津砦と同じく、今川方の大高城に対抗するため信長によって築かれた。桶狭間の戦いでは激戦地となった場所で、鉄砲が用いられたといわれる。今も一部の曲輪と堀が形を残している。国指定史跡

普段見慣れた風景のなかにも、地域の歴史を学ぶと気づかずにはいた史跡や旧跡が見えてきます。地元の人でもあまり知らなかったり、見過ごしたりしている大高の歴史や文化を、少しでも多くの人たちに知ってもらいたいと活動しているのが「大高歴史の会」です。



「ひかみちゃん」と「ほだくん」は、大高在住のイラストレーター・大橋由起子さん作成の大高歴史の会のキャラクター

# まちの歴史を後世につなぐ

巻頭特集 地域愛あるメンバーが活躍 大高歴史の会



1.キャラクターが描かれたオレンジ色のベストを身にまとい、史跡散策会を実施 2.まちかど案内板は会員が管理者・所有者の了承を得て、手書きで制作。現在町内に15カ所立てられています 3.地元の小学校に出向き、自分が住むまちの歴史を子どもたちにも伝えていきます

## 重層的な歴史を持つ見どころ豊富なまち

緑区の南西に位置する大高。明治27年に知多郡大高町として町制を施行、昭和39年12月1日、名古屋市長に編入されました。起伏が多い丘陵地帯で、中央部を水主ヶ池に発する大高川が流れています。「尾張国地名考」によれば、かつて「火高」と呼ばれていましたが、火災が相次いだため「大高」と改めた、とあります。

大高の歴史や文化を学び、史跡散策ガイドなどをする「大高歴史の会」が発足したのは平成21年4月。「知名度が高い鳴海や桶狭間だけではなく、大高にも深い歴史と史跡や名所があることを多くの人に知ってほしい」と、地元の歴史に思いを寄せる住民たちが主体となって結成しました。「大高は交通の便が良く、大きなショッピングモールも誕生し、生活に便利なまちへと進化しています。



「大高歴史の会」会長の山口輝雄さん  
同会は随時、入会を受け付けています。懇談会(毎月第2・第4月曜日午前9時30分から八幡社(参集所)で開催)の見学も歓迎。入会などの問い合わせは052-625-3093(山口さん)、散策関係は090-8952-8610(近谷篤さん)まで

しかし、古い歴史が誰にも知られずに消えていくのは寂しい。記録に留めておくこと、伝えていくことが我々の会の務めだと思っています」と会長の山口輝雄さんは話します。

江戸時代、隣接する鳴海は東海道宿場町として繁栄を極めていました。一方、大高は東海道筋ではなかったものの、東海道から分岐した常滑街道などが走り、往来する人々にぎわったそうです。

大高1帯は尾張藩領で、2代藩主・徳川光友が奨励したことにより、酒造りが盛んな地域でもありました。天白川支流の水運を利用し、酒を江戸まで輸送。明治期には9軒の蔵元があり、現在も3軒が営業を続けています。会では例年2月の酒蔵開きに合せて、「大高の城下町散策会」に協賛。今年は300人が参加し、好評を博しました。

戦国時代は織田氏と今川氏の抗争地点でした。今川軍が尾張に侵入する際の前進基地的な役割を担った大高城。これに對抗して信長が築いた鷺津砦と丸根砦。これらが三角形を描くように対峙し、鷺津、丸根の両砦における戦

いは、桶狭間の戦いの前哨戦といえるものでした。大高城跡、鷺津砦跡、丸根砦跡は昭和13年、国の指定史跡となっています。「大高の路地が細く、クランクが多いのは戦国時代の防壁のための痕跡です」と山口さん。

さらに歴史をさかのぼると、神話の時代に行き着きます。町内には日本武尊伝説にまつわる氷上姉子神社があります。東国征伐の帰途、日本武尊は尾張国造として火上の地を本拠としていた乎止与命の娘、宮簀媛命と結ばれました。日本武尊の死後、宮簀媛命が授かった草薙神剣を熱田に遷して創祀したのが熱田神宮の起源とされています。その根拠である氷上姉子神社は、乎止与命の鎧跡に創建されました。

大高周辺の丘陵地帯には多数の古墳があり、この一帯を治めていた豪族の存在が考えられるなど、まだまだ大高には解明が待たれる歴史も残ります。

## 大高を愛する住民が地域の魅力を発信

現在の会員は20人余り。月に2回、定例勉強会を開催し、「大高町誌」「尾張名所図会」などの書籍や史料を教材に知識を深めます。ときには名古屋市の歴史が記録された映像などからまちの歴史との関連を調べたり、史跡や神社仏閣などに赴き、現地学習会をしたりすることも。

会報誌「ほだかの里だより」を季刊で発行しており、10月には第19号となる秋号が出ます。会報には、会員自らが調査研究した成果などが掲載されています。

散策ガイドの依頼も多く、平成26年には27回実施。参加人数は752人を数えました。今年も同様のペースで、6月までの半年間で12回行っています。区役所で開かれた「ガイド育成講座」や名古屋観光コンベンションビューロー主催の「なごや歴史まち歩き座学」などに参加して、ガイドの腕を磨いてきました。

そのほかに「まちかど案内板」の設置をはじめ、歴史関連講座への講師派遣、散策マップの作成、小学校への出前授業など、活動は多岐にわたります。

山口さんは「会員は大高が好きな人ばかり。地域の歴史をさらに深く学んで、多くの人に伝えていきたい」と思いを語り、「私たちの活動を通して、大高の歴史や文化に感動する人が増えてくれるとうれしいですね」と続けました。このように長い歴史を有する大高。秋の1日、ぜひ散策に出掛けてみてはいかがでしょうか。